

石原莞爾 陸軍軍人。<満州事変>を指導するも<日中戦争>の進め方で左遷され、<敗戦>後は武力放棄を唱えた。  
いしはらかんじ  
帝国憲法発布 1889 = 山形県鶴岡町で、大名酒井家の漢学者から維新後警察官となった下級士族の子に生まれた。

日清戦争始 1894 = 5歳 :

子規句歌革新 1898 = 9歳 :

教科書疑獄 1902 = 13歳 : 庄内中学2年の時、軍人を志して、仙台地方幼年学校に入学、  
明晰な頭脳と強烈な個性による実行力を発揮、成績抜群ながら素行に問題ありとされる。

日露戦争終 1905 = 16歳 : 首席で卒業。陸軍中央幼年学校に入学、

韓国反日暴動 1907 = 18歳 : 本科終了後、士官候補生として山形の連隊に配属された後、陸軍士官学校に入学、

伊藤博文暗殺 1909 = 20歳 : 次席で卒業(21期)、新設の会津若松連隊に配属され、  
韓国併合 1910 = 21歳 : 同連隊の朝鮮春川移転に伴い、朝鮮に渡る。

明治天皇没 1912 = 23歳 :

21ヶ条要求 1915 = 26歳 : 連隊から推薦されて、陸軍大学校に入学。  
民本主義 1916 = 27歳 :

本格政党内閣 1918 = 29歳 : 2番で卒業。会津若松連隊に戻った後、

ベルサイユ条約 1919 = 30歳 : 教育総監部に転属。結婚し、

大暴落 1920 = 31歳 : 田中智学の国柱会の会員となって日蓮信仰に入った直後、中支那派遣隊司令部付として漢口に渡り、

原敬首相暗殺 1921 = 32歳 : 板垣征四郎と出会って帰国、陸軍大学の兵学教官になる。

水平社結成 1922 = 33歳 : 命じられてドイツに留学。

ベルリン大学教授で戦史家のハンス・デルブリックの戦略理論から強い影響を受け、国柱会員としての日蓮宗信仰と欧州戦史研究とに基づき、

治安維持法 1925 = 36歳 : 独自の世界最終戦争論を樹立して、帰国。陸大で戦史を講義。

共産党事件 1928 = 39歳 : 陸大を辞し、<張作霖爆殺事件>で退いた河本大作後任として関東軍参謀となり、満州旅順に赴任。

最終戦争への第一段階として満蒙領有論を唱えるうち、

海軍軍縮条約 1930 = 41歳 : 満鉄ロシア班の宮崎正義と運命的な出会いをし、以後彼をブレインと仰ぐ。

満州事変 1931 = 42歳 : 満州事変の指導と満州帝国の樹立において、板垣征四郎とともに主役となる。

五一五事件 1932 = 43歳 : 人事異動で帰国、凱旋將軍の扱いで金鷄勲章、同期トップきって大佐に昇進、国際連盟総会代表随員、

国際連盟脱退 1933 = 44歳 : 歩兵第四連隊長なる。

帝人疑獄事件 1934 = 45歳 :

芥川直木賞始 1935 = 46歳 : 参謀本部課長となり、「重要産業五カ年計画」作成など、最終戦争の見地から日本と満州国を一体とした総力戦体制の確立に力を注ぐ。

日中戦争始 1937 = 48歳 : 蘆溝橋事件がおきると、この構想実現のために戦闘不拡大を主張し、参謀本部作戦部長から関東軍参謀副長に左遷された。ここでも満州国のあり方をめぐり、東条を批判して孤立、病気を理由に無断で帰国、

舞鶴要塞司令官となる。石原の失脚とともに、満州に来ていた優秀な官僚たちが次々と本国に戻る。西安事件などを契機に中国民族運動に着目し、日中提携による和平の方策として東亞連盟論を唱え、

第二次大戦始 1939 = 50歳 : 陸軍中将・第16師団長となる。黒幕となって東亞連盟協会を結成、講演の度、東条批判を続け、

日米開戦 1941 = 52歳 : ついに予備役に編入され、以後、東亞連盟運動の指導に専念した。

創価学会検挙 1943 = 54歳 :

敗戦 1945 = 56歳 : 敗戦後は全面的武力放棄を唱え、故郷で日蓮宗信者とともに開拓生活を送って、

三大事件 1949 = 60歳 : 肺炎に罹り没した。